

## 推奨モデル特別賞

■ 団体名 伊那市立長谷中学校3学年（長野県）

■ 企画名 鋤を持って！中学生の開墾キャンプ

～ふるさとの自慢の畑と味を復活させよう～

■ 目的

長野県伊那市長谷は過疎化の波が止まらず、年々人口が減少。それに伴い、かつて農業で栄えたこの地を引き継ぐ人がいなくなり、耕作放棄地が点在している。土地も地域の人々の気持ちさえも元気がなくなりつつある故郷を、地元の中学生の力で地域おこしをしていく。また、自然を相手に人の力で開墾を進めた当時の人々の苦労や想いを体験する。

■ 企画内容

- ①昭和40年代頃には、長谷の市野瀬地区ではダイコン栽培が盛んで、「市野瀬のダイコンは最高に美味しい」と評判だったと、地域の高齢者から話を聞いた。しかし今ではその畑も荒地になり、もう数年で山に還ろうとしている。そこでその地にキャンプを張り、地元の中学生が鋤を持ち、もう一度ダイコン畑を復活させ、市野瀬のダイコンを地域の方々に振る舞う。
- ②開墾のためのキャンプには、地域の方々にも声をかけ協力していただき、共に作業をしたりふれあったりすることで、ふるさとの歴史や魅力をお互いに再確認する。
- ③ダイコンが美味しく育ち、地域の方々が喜んで再び栽培を始めたり、地域の若者や移住者がここでダイコンを育てたい、この地を大切にしたいと思い始めてくれたりすれば、耕作放棄地の復活にも繋がると考えた。

■ 実施期間：2020年4月中旬～現在も活動中

■ 実施場所：伊那市立長谷中学校、長野県伊那市長谷市野瀬地区

■ 企画の特徴

かつて地域の人たちに愛され、育てられていた市野瀬地区のダイコンに着目したこと、耕作放棄地の再利用、そして中学生が山に入り、鋤をもって開墾をし、畑を復活させるという自然体験。荒地を人の力で耕すということは容易なことではないが、当時、土地を開拓した人たちの想いや苦労を体験させたいと願った。自分たちの住む地域を自分たちの足で歩き、もう一度見直したい、地域の人たちを元気にしたいという生徒たちの願いを形にした。キャッチフレーズは「鋤を持って！」。

活動後は市野瀬地区の高齢者の方々がたいへん喜んでくださり、その笑顔を見ることができた生徒たちは自分たちの学習の成果を実感できた。この「地域おこし」の活動を見聞きした地域の方々、地元の若い世代や地域おこし協力隊、また小中学校の後輩たちから、この活動や「ふるさとを大切にする」精神の後を継ぎたいというお話をいただき、活動の広がりを実感できた。キャンプの夜、地域の方からの「コロナのせいで夏の風物詩（花火大会や夏祭り）がなくなって寂しい」という一言から、中学生主催の花火大会や縁日へと活動が広がり、それを地域全体が支え、応援してくださったことは、地域のふるさと創生への波及効果と呼んだ。

